

■ よいはま

「ごしづき」を

# アートなまちに

寿オルタナティブ  
ネットワークが運営

簡易宿泊所(簡宿)が密集する横浜市中区の寿地区で、簡宿の一部を改装した宿泊施設「Hostel Porto Yokohama(ホステル ポルト ヨコハマ)」(Porto、同区松影町3丁目)にギャラリーが登場した。地域住民とアーティストらが共同でまちおこしを図る「KOTOBUKIクリエイティブアクション」の一環。若手作家らの作品を、公開している。入場無料。

Portoはことし4月、6階建て簡宿の1階と3階部分にオープンした。ギャラリーは、Portoの協力を得て、地域住民やボランティアなどがつくる「寿オルタナティブ・ネットワーク」(佐藤真理子代表)が運営、1階廊下で8月15日から展示を始めた。

同ネットワーク総合プロデューサーの河本一満さん(48)は「若手作家に発表の場を提供できる。地域に作品を見にくる人が増え、アートが見られるまちとすることができる」と期待している。

ギャラリーは、正午から午後6時まで。3カ月ごとに作品を入れ替えるといい、今回の展示は10月3日までで、会期中は無休。今後は、3階部分や室内にも常設の展示作品を設ける予定。

今回、20代の作家計8人が参加。木陰に体育座りする人の写真や、ホットドッグやネクタイなどが絡み合った油絵など、現代アート作品計17点が飾られている。

## 宿泊施設にギャラリー登場



壁に若手アーティストの作品が並ぶ廊下  
|| 中区松影町3丁目の「Hostel Porto Yokohama」